

令和7年度（2025年度）

宮崎大学大学院農学研究科修士課程
学生募集要項

社 会 人 選 抜

令和6年（2024年）4月

宮崎大学大学院
農学研究科

社会人の受け入れについて

急速な技術革新や社会経済の進展等により、様々な分野で活躍している社会人の間で、より高度な専門的知識や技術を習得するために大学院へ進学しようとする気運が高まっています。大学卒業後の職場における経験を通して培われた知識・技術をさらに大学院で磨いていくことは、社会人個人の自己啓発にとどまらず職場の活性化にも寄与するものと期待されます。

宮崎大学大学院農学研究科では、このような向学の志を抱く社会人を受け入れるために、現役の学生に課す学力試験にかえて、面接や業績を主体にして社会人の特別選抜を行い、その資質と意欲を評価しようとする制度を設けています。

1、2年次で履修する修士論文を中心とした特別研究の実施は必ずしも本学に限定しない、など履修方法も社会人の受け入れに即したものになっています。

多くの職場において、この特別選抜による進学が可能になるように、職員や社員を派遣する措置が講じられることを期待します。

令和6年(2024年)4月

宮崎大学大学院農学研究科長

國武久登

目 次

| | |
|---|----|
| 1. 専攻・コース及び募集人員 | 1 |
| 2. 出願資格 | 1 |
| 3. 出願手続 | 1 |
| 4. 検定料の支払い | 4 |
| 5. 出願手続完了及び受験票の印刷 | 4 |
| 6. 選抜方法 | 5 |
| 7. 口述試験日程 | 5 |
| 8. 合格者発表 | 5 |
| 9. 障がい等のある入学志願者の事前相談 | 6 |
| 10. 入学手続等 | 7 |
| 11. 個人情報の取扱いについて | 7 |
| 12. 注意事項 | 8 |
| 農学研究科アドミッションポリシー | 9 |
| 令和7年度(2025年度)農学研究科指導予定教員、主な研究課題及び口述試験科目 | 12 |

1. 専攻・コース及び募集人員

| 専攻 | コース | 募集人員 |
|------|--|------|
| 農学専攻 | 植物生産環境科学コース 森林緑地環境科学コース 応用生物科学コース 海洋生物環境科学コース 畜産草地科学コース 農学国際コース | 若干人 |

2. 出願資格

次の各号いずれかに該当する者で、令和7年(2025年)3月までに(A)2か年以上官公庁、企業又は教育機関等に勤務している者又は勤務した者、及び(B)2か年以上海外ボランティア活動又は国際協力経験がある日本国籍を有する者

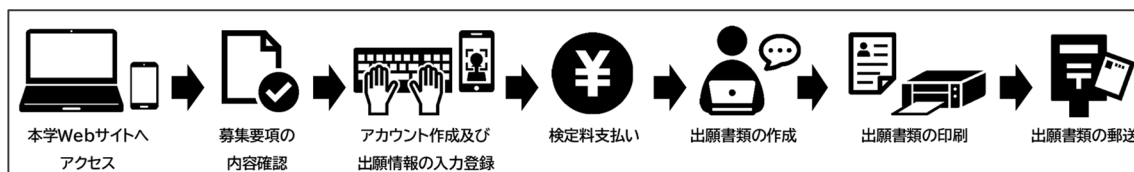
- (1) 令和5年(2023年)3月以前に大学を卒業した者
- (2) 令和5年(2023年)3月以前に外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (3) 文部科学大臣の指定した者
- (4) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び学位規則(昭和28年文部省令第9号)第6条第1項に基づき大学改革支援・学位授与機構が定めている要件を満たすものとして認定した短期大学及び高等専門学校の専攻科を令和5年(2023年)3月以前に修了した者で、令和7年(2025年)3月までに学位を授与される見込みの者
- (5) 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和7年(2025年)3月までに学士の学位に相当する学位を授与される見込みの者
- (6) 個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると本研究科が認めた者で、22歳に達した者及び令和7年(2025年)3月末までに22歳に達する者

注) 出願資格(6)により出願する者は、資格審査を行いますので、第1次募集については令和6年(2024年)6月10日(月)、第2次募集については令和6年(2024年)11月8日(金)までに、農学部教務・学生支援係へ申し出てください。

3. 出願手続

本学の出願方法は、Web出願のみとなっています。Web出願システムで、出願情報を入力・登録し、検定料を支払う(以下、「Web出願登録という。')だけでは、出願完了とはなりません。出願期間内に「(2)提出書類」を窓口へ持参又は郵送(出願期間内に必着)し、内容に不備がなかった場合に出願完了となります。

(1) Web 出願の流れ



Web 出願システムへは、本学 Web サイト

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/graduate-exam/webapply.html>
からアクセスし、Web 出願登録を行ってください。



(2) 提出書類

① Web 出願システムに入力し、印刷するもの（印字されている内容に誤りがないか確認してください。）

| 提出書類 | 摘 要 |
|------|---|
| 志願票 | Web 出願登録及び入学検定料支払い後、A 4 用紙に印刷したもの。 <u>検定料支払い後は、登録内容を変更できませんので、支払い前に間違いがないか十分確認してください。</u> |
| 履歴書 | 検定料支払い後、Web 出願システムの必要書類から入力し、A 4 用紙に印刷したもの。 <u>登録後は、内容を変更できませんので、間違いがないか十分確認してください。</u> |

② Web 出願システムにアップロードする必要があるもの

| | |
|------|---|
| 証明写真 | 志願者本人の顔写真のアップロードを行ってください。 (注) 写真は、志願者本人と判別できるもので、カラー・上半身・無修正・無帽・正面向き・無背景・直近 3 か月以内に撮影した 100KB～5 MB サイズの jpg 又は png データを使用してください。 |
|------|---|

③その他出願者が準備する必要提出書類

| 提出書類 | 摘 要 |
|-------------------|---|
| 卒業(修了)証明書 | 出身学校長が作成したもの |
| 大学院において行おうとする研究内容 | 1,000 字程度 (任意様式) |
| 本人の業績 | 研究論文、技術報告書、特許、実用新案等内容を示すもの、又は 国際協力活動報告書(任意様式) |

【注意事項】

ア 「2. 出願資格(4)」による出願者のうち、学位を授与された者は、大学改革支援・学位授与機構が発行する学士の学位授与証明書、学位授与見込みの者は、在学する専攻科の修了見込証明書及び学位を申請する予定である旨の所属短期大学長又は高等専門学校長の証明書を提出すること。

イ 「出願資格(B)」による出願者は、国際協力活動などに従事した機関・団体からの証明書(従事期間明記、任意様式)を提出すること。

- ウ 外国人で入学を志願する者は、在留カードの写(両面)又は住民票の写し及び身元引受人の承諾書を提出すること。
- エ 提出書類に不備がある場合は、受理しないことがあります。
- オ 提出書類受理後は、いかなる理由があっても書類の返却・記載事項の変更には応じません。
- カ 提出書類に不正な事実があった場合は、入学許可を取り消すことがあります。

(3) 提出方法等

- 1) 持参する場合は(2)の提出書類を全て揃えて提出してください。
- 2) 郵送する場合は、市販の角形2号封筒(240mm×332mm)に(2)の提出書類を全て入れ、封筒の表に「大学院農学研究科社会人選抜入学願書在中」と朱書きし、一般書留速達郵便で送付してください。
- 3) 提出書類に不備がある場合には受理しないことがありますので十分注意してください。

(4) 提出先

- | | | |
|-------|-----------|---|
| 第1次募集 | 〒889-2192 | 宮崎市学園木花台西1丁目1番地 宮崎大学学び・学生支援機構入試課 電話 (0985)58-7138 |
| 第2次募集 | 〒889-2192 | 宮崎市学園木花台西1丁目1番地 宮崎大学農学部教務・学生支援係 電話 (0985)58-7152 |

(5) 提出書類(出願書類)の受付期間

- | | |
|-------|------------------------------|
| 第1次募集 | 令和6年(2024年)7月9日(火)～7月12日(金) |
| 第2次募集 | 令和6年(2024年)12月3日(火)～12月6日(金) |
- 1) 第2次募集は、第1次募集合格者のうち、入学手続きを行った者が募集人員に満たない場合に実施する予定です。
 - 2) 持参の場合、9時から17時まで受け付けます。
 - 3) 郵送の場合、第1次募集は7月12日(金)17時必着、第2次募集は12月6日(金)17時必着とします。
 - 4) Web出願登録期間については、第1次募集は令和6年(2024年)7月2日(火)から、第2次募集は令和6年(2024年)11月26日(火)から事前に登録可能です。
なお、Web出願登録サイトにおいて出願情報の登録を完了しただけでは、出願手続きが完了したことにはなりません。その後、検定料を支払い、出願期間内に「(2)提出書類」を窓口へ持参又は郵送(出願期間内に必着)し、内容に不備がなかった場合に出願完了となります。

4. 検定料の支払い

(1) 検定料 30,000 円

検定料に加えて、支払方法に応じたシステム利用料が必要です。クレジットカード決済は1,050円、コンビニ決済及びPay-easy決済は400円です。

本学の指定する激甚災害により被災した志願者については、検定料の支払いは不要です。以下のURLを参照し、該当する方は出願前に必ず本学学び・学生支援機構入試課（0985-58-7138）へ連絡してください。

※ 激甚災害により被災した志願者の入学検定料免除について

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/admission/nk-menjo.html>



(2) 支払方法

クレジットカード決済、コンビニ決済、Pay-easy決済が利用できます。

(注) 1. 支払いが完了すると、出願情報の修正はできません。必ず支払い前に入力した情報（特に、志望コースや住所）に間違いがないかを確認してください。

2. 提出書類受理後は、いかなる理由があっても検定料の返還には応じません。

ただし、検定料の支払い後、出願しなかった場合は、返還手続きを行うことができますので、期限内に手続きを行ってください。なお、期限を過ぎてからの請求には一切応じません。

返還手続き方法は、以下のURLを確認してください。

※ 入学検定料返還手続きについて

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/admission/nk-henkan.html>



5. 出願手続き完了及び受験票の印刷

出願手続きが完了した者には、第1次募集では令和6年7月17日（水）に、第2次募集では令和6年12月10日（火）に、Web出願システムより受験票の印刷が可能になった旨を出願登録時に登録したメールアドレス宛に送付しますので、必ずWeb出願システムにログインして確認してください。受験票はA4判で印刷し、試験当日に必ず持参してください。受験票が確認できない場合は、本学農学部教務・学生支援係（0985-58-7152）へ連絡してください。

6. 選抜方法

入学者の選抜は、各コースで定めた口述試験の他、提出された出願書類の審査、本人の業績等の結果を総合して行います。

口述試験

口述試験科目は、募集要項の「令和7年度(2025年度)農学研究科指導予定教員、主な研究課題及び口述試験科目」を参照の上、志望するコースの口述試験科目の中から、入学後に指導を希望する教員（以下「指導希望教員」という）が指定する1科目を受験すること。

| コース | 口述試験科目 |
|-------------|--|
| 植物生産環境科学コース | 施設園芸学、果樹園芸学、園芸利用学、作物学、応用昆虫学、植物生理学、地域農学、労働環境工学、生産システム工学、農業経営経済学、植物病理学、野菜・花き園芸学、花き生理学 |
| 森林緑地環境科学コース | 造林学、地域環境施設学、森林経営経済学、木本植物科学、砂防学、森林立地学、地域水文気象学、生物環境物理学、森林計画学、森林利用学、森林保護学、国土管理保全学、森林植物細胞学、森林機能生態学 |
| 応用生物科学コース | 応用生物化学、植物機能科学、食品科学、微生物機能開発学、動物資源科学 |
| 海洋生物環境科学コース | 海洋生物化学、海洋生物環境学、海洋生物生理病理学 |
| 畜産草地科学コース | 動物遺伝育種学、動物生殖制御学、動物生理栄養学、草地生態システム学、飼料作物・利用学、動物環境管理学、草地管理学、草類遺伝資源・育種学、草地畜産学、動物衛生微生物学 |
| 農学国際コース | *注 |

*注 農学国際コースについては、全口述試験科目の中から指導希望教員が指定する1科目を受験すること。

7. 口述試験日程

第1次募集 令和6年(2024年)8月20日(火)13時から

第2次募集 令和7年(2025年)1月15日(水)13時から

※ 口述試験はコースごとに行います。ただし、農学国際コースについては、指導希望教員が主に担当するコースで行います。

※ 口述試験室については、第1次募集では令和6年(2024年)8月19日(月)10時から、第2次募集では令和7年(2025年)1月14日(火)10時から農学部講義棟前に掲示するので、必ず確認してください。

※ 原則として試験開始後10分以内(13時10分まで)の遅刻に限り受験を認めます。

※ 入学試験において不正行為をした場合は失格とし、合否判定の対象外とします。

8. 合格者発表

第1次募集 令和6年(2024年)9月3日(火)9時

第2次募集 令和7年(2025年)2月5日(水)9時

合格者は、農学部に掲示するとともに、本人に合格通知を送付します。

9. 障がい等のある入学志願者の事前相談

障がい等があり、受験上及び修学上特別な配慮を必要とする人は、出願書類提出前に宮崎大学学び・学生支援機構へ相談してください。相談内容によっては本学において事前の準備を必要とする場合がありますので、できるだけ早急にご相談ください。

次表に相談例を示しますので参考にしてください。ただし、この相談例に限定するものではありません。

(1) 相談時期

原則として第1次募集出願者は令和6年(2024年)6月10日(月)まで、第2次募集出願者は令和6年(2024年)11月1日(金)までとします。

期限を過ぎている場合または出願締切後に不慮の事故のため受験上・修学上の配慮を必要とする場合については、早急に学び・学生支援機構入試課へ連絡してください。

(2) 相談方法

相談申請書(様式任意)に次の内容を記載し、医師の診断書等を添えて提出してください(郵送可)。

- ①志願者氏名・志望研究科・コース
- ②障がい等の種類・程度
- ③受験上・修学上の配慮を希望する事項
- ④出身学校でとられていた配慮事項
- ⑤日常生活の状況
- ⑥住所及び連絡先の電話番号

なお、必要な場合は、本学において志願者又はその立場を代弁し得る関係者との面談等を行うこともあります。

※相談申請書ダウンロード先: <http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/admission/1789-2.html>

(3) 相談先

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地
宮崎大学学び・学生支援機構入試課
電話 (0985)58-7138 / FAX (0985)58-2865

| 相談例 | |
|--------|---|
| ①視覚障がい | 拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は困難なもの |
| ②聴覚障がい | 補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は困難なもの |
| ③肢体不自由 | 1. 肢体不自由により、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難なもの 2. 肢体不自由により、常時の医学的観察指導を必要とするもの |
| ④病弱 | 1. 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患により、医療又は生活規制を必要とするもの 2. 身体虚弱により、生活規制を必要とするもの |
| ⑤発達障がい | 自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がい等のため配慮を必要とするもの |
| ⑥その他 | ①～⑤以外の者で配慮を必要とするもの |

10. 入学手続等

合格者へは合格通知と併せて入学手続書類を送付しますので、必ず所定の期間内に入学手続を行ってください。また、受験票は入学手続時に必要ですので保管しておいてください。

詳細は入学手続案内において確認してください。

(1) 入学手続期間

第1次募集合格者 令和6年(2024年)9月3日(火)から10月31日(木)まで

第2次募集合格者 令和7年(2025年)2月5日(水)から3月27日(木)まで

(2) 入学料 282,000円

(注1) 入学料に改定があった場合は、改定後の入学料を納入してください。

(注2) 納入された入学料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。

①入学手続書類を提出しなかった場合、②入学料を誤って二重に振り込んだ場合

(3) 授業料 前期分 267,900円、後期分 267,900円、年額 535,800円

(注1) 授業料は、入学後に納入してください。

(注2) 授業料の支払いは、預金口座からの「口座振替」を原則とします。

(注3) 前期の口座振替日は、1年次は5月下旬頃、2年次以降は4月下旬頃の予定です。
後期の口座振替日は10月下旬頃の予定です。

(注4) 在学中に授業料の改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。

(注5) 授業料に関する事項は以下のHPに記載しますのでご確認ください。

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/campus/fees/jugyou/>

※ 入学料及び授業料については、定められた条件を満たす者に対して「免除」の制度があるので、該当すると思われる者は、入学手続時までに申し出てください。

11. 個人情報の取扱いについて

(1) 個人情報については、「国立大学法人宮崎大学個人情報保護ポリシー」に基づいて取り扱います。

(2) 出願に当たってお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報については、①入学者選抜(出願処理、選抜実施)、②合格発表、③入学手続業務を行うために利用します。

(3) 入学者選抜に用いた試験成績は、今後の入学者選抜方法の検討資料の作成のために利用します。

(4) 上記(2)及び(3)の各種業務での利用に当たっては、一部の業務を本学より該当業務の委託を受けた業者において行うことがあります。

(5) 出願に当たってお知らせいただいた個人情報は、入学者のみ①教務関係(学籍、修学指導等)、②学生支援関係(健康管理、就職支援、入学料免除、授業料免除、奨学金申請等)、③授業料徴収に関する業務を行うために利用します。

12. 注意事項

- (1) Web 出願登録サイトにおいて出願登録を完了した後は、志望コース、口述試験科目の変更は認めません。
- (2) 提出書類に不備がある場合には、受理しないことがありますので十分に注意してください。
- (3) 受付後の提出書類は返還しません。
- (4) 出願手続及び入学手続において不正な行為があった場合は、入学を取り消すことがあります。
- (5) 既納の検定料は、以下の場合を除き、返還いたしません。
 - ① 提出書類を郵送又は持参しなかった場合
 - ② 提出書類の不備や出願資格を満たさない等の理由により出願が受理されなかった場合※Web 出願登録サイトにおいて出願情報の登録を完了しただけでは、出願手続が完了したことにはなりません。その後、検定料を支払い、出願期間内に必要書類を窓口へ持参又は郵送（出願期間内に必着）し、内容に不備がなかった場合に出願完了となります。
- ③ 誤って二重に支払った場合
返還手続き方法及び手続き期限等は、以下の URL から確認してください。

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/admission/nk-henkan.html>



※ 内容に関する問い合わせ先

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地
宮崎大学農学部教務・学生支援係
電話(0985)58-7152

1. 教育理念(教育理念・目標、育成する人材像)

本研究科では、学部教育の専門性をさらに深化させ、高度で先端的な知識と技術を修得できる大学院教育を行います。国内外の食料、環境、資源および生命に関する課題を解決し、自然環境と調和のとれた持続的生産社会の創造に貢献できるとともに、農学に関する高度な専門知識と応用能力を有する国際性豊かな高度専門技術者及び研究者の育成を目指します。

植物生産環境科学コース:植物機能の開発・向上、生物環境の解析・制御、生産・加工・流通における農業生産環境の改善、地域生態系の管理等に関する高度な専門知識を教育し、その研究者や実践者を養成します。さらに国際的視野を持ち、安全で持続的な植物生産とその利活用に寄与できる人材を育成します。

森林緑地環境科学コース:人類の生存には水資源や森林・緑地の適切な管理が重要です。本コースでは森林および緑地の環境保全と生態系修復、森林資源や水資源の持続的利用に関する先端技術を教授し、国際社会での活躍も視野に、資源・環境問題に指導的な立場で活躍できる高度専門技術者・研究者の育成を目指します。

応用生物科学コース:生物科学に関わる知識と技術を有し、応用生物科学分野での科学技術の発展に寄与できる総合的な知識と実践力を備えた高度技術者および研究者を養成します。また国際化・情報化時代に対応できる人材の育成を目指します。本コースの修了生は、農業、化学、食品、医薬等の分野の技術者・研究者としての活躍が期待されます。

海洋生物環境科学コース:海洋・河川・池沼などの水圏における生物生産につながる幅広い基礎知識と応用技術を有し、水圏生物の生物多様性および生態系との調和を前提とした生産・利用技術の発展に貢献できる高度専門技術者および研究者を育成します。また、海洋生物や水産科学分野の中心的リーダーとして国際的に活躍できる人材の育成を目指します。

畜産草地科学コース:「土―草―家畜のつながり」と「from Farm to Table」を教育理念として、環境調和型・持続生産型の安全で高品質な畜産物生産システムに関する高度な教育研究を通じて、世界的視野を持ち、畜産草地に関して多面的に展開できる理論と専門的技術を修得した高度な専門職業人の養成を目指します。

農学国際コース:農学専攻が一専攻である特徴を活かし、学部教育で不十分であった分野横断型の環境保全的生物生産、動植物の統合的防疫、及び生物遺伝資源の保存と利活用に関する課題探究・問題解決型の3つの実践プログラムを提供します。そして、海外の学術交流協定校と連携した相互交流教育を実践することにより、農学に関する多様で高度な専門知識・技術を国際的に活用し、展開できる高度専門技術者および研究者を育成することを教育目標とします。

2. 入学者受け入れ方針(求める人材像)

以上の教育理念・目標に掲げた人材を育成するために、本研究科では以下のような人を積極的に受け入れます。

植物生産環境科学コース

1. 植物生産システムに関する大学学部レベル相当の専門的知識を有している人(知識・技能)
2. 産業の発展に貢献する意欲を有している人(学問への関心・向学心、探究心)
3. 生物資源の適正管理や農業生産環境の向上に関する専門的知識と意欲を有している人(知識・技能、探究心)
4. 持続的な植物生産のために国際的に活躍する意欲と基礎的な能力を有している人(思考力・判断力・表現力、探究心)

森林緑地環境科学コース

1. 森林および緑地の機能、自然環境や国土保全、森林資源や水資源等に関する大学卒業程度の基礎的専門知識・技術を身につけている人(知識・技能)
2. 自己の知識と技術を用いて、他者と協調しながら問題解決に取り組むためのコミュニケーション能力と論理的思考力を身につけている人(思考力・判断力・表現力)
3. 森林および緑地の環境保全と生態系修復、森林資源や水資源の持続的利用に関するより高度な専門知識と先端技術を身につける意欲がある人(学問への関心・向学心、探究心)

応用生物科学コース

1. 大学卒業レベルの専門知識を有し、さらに深く学ぼうとする意欲のある人(知識・技能、探究心)
2. 論理的な思考力を有し、科学の探究や課題解決に取り組む意欲のある人(思考力・判断力・表現力)
3. 高度な専門知識と技術を身につけることで社会に貢献しようという積極性と意欲のある人(学問への関心・向学心、探究心)
4. 世界を視野に置いた語学力を有し、国際的に活躍する意欲のある人(学問への関心・向学心、探究心)

海洋生物環境科学コース

1. 水圏生物、水域環境、水産化学、水産資源と管理、水産増殖に関する大学学部レベル相当の専門知識と研究技術を有している人(知識・技能、思考力・判断力・表現力)
2. 水圏生物に関する基礎科学分野である資源、多様性、分類、生理、生態、保全および環境問題に積極的に取り組む意欲のある人(学問への関心・向学心、探究心)
3. 水圏生物の生産に関する応用科学分野である増殖、病理、マリンバイオテクノロジー、水産食品および海洋機能成分の研究に積極的に取り組む意欲のある人(学問への関心・向学心、探究心)
4. 海洋生物環境科学分野で国際的に活躍する意欲のある人(学問への関心・向学心、探究心)

畜産草地科学コース

1. 自給飼料に基盤をおいた資源循環・低投入持続型畜産に関する大学学部レベル相当の基礎的・応用的知識を備え、これらに関する英語による基礎的な表現・読解力を有する人(知識・技能)
2. 食料・飼料自給率の向上や自然・社会環境と畜産物生産システムとの調和に関する諸課題を分析・考察し、解決策を提示する基礎的な能力を有する人(思考力・判断力・表現力)
3. 国内外の「食料・農業・農村」をめぐる諸課題の解決に積極的に取り組む意欲を有する人(学問への関心・向学心、探究心)

農学国際コース

1. 国際的視野で食料・環境・資源に関して大学学部レベル相当の基礎的・応用的知識を備えている人(知識・技能、思考力・判断力・表現力)

2. 英語による基礎的な表現・読解力を有する人(知識・技能)
3. 環境保全型生物生産、動植物の統合的防除および生物遺伝資源の保存と利活用に関する分野で、国内外で活躍したい人(学問への関心・向学心、探究心)

3. 入学者選抜の基本方針

上記の「求める人材像」で示す能力を有する人を多面的・総合的に評価するために、以下のような基本方針にもとづいて入学者を選抜します。

1. 同一年度内に複数回の入学試験を実施します。
2. 一般、社会人、外国人留学生の出願資格に応じた試験(筆記試験と面接の組み合わせ、あるいは口述試験)を実施します。
3. 客観的で透明性のある方法によって、公平に選抜します。

[選抜区分による選抜方法及び評価の観点]

(ア) 一般選抜

入学者の選抜は、学力検査(筆記試験)、面接、外部英語検定試験の成績及び書類審査の結果を総合的に判断して行います。

学力検査(筆記試験)では、大学院での教育研究に必要となる各専門分野に関する知識・技能及び思考力・判断力・表現力を評価します。

面接では、学問への関心・向学心、探究心及び思考力・判断力・表現力を評価します。

外部英語検定試験では、大学院での教育研究に必要となる英語力を評価します。

(イ) 社会人選抜

入学者の選抜は、口述試験及び書類審査の結果を総合的に判断して行います。

口述試験では、主として各コースの専門分野に関する知識・技能、学問への関心・向学心及び探究心を評価します。

書類審査では、専門分野に関する知識・技能及び思考力・判断力・表現力を評価します。

(ウ) 外国人留学生入試

入学者の選抜は、専門試験、面接及び書類審査の結果を総合的に判断して行います。

専門試験では、主として各コースに関連する専門分野に関する知識・技能及び思考力・判断力・表現力を評価します。

面接では、思考力・判断力・表現力、学問への関心・向学心及び探究心を評価します。

書類審査では、知識・技能、思考力・判断力・表現力、学問への関心・向学心及び探究心を評価します。

令和7年度農学研究科指導予定教員、主な研究課題及び口述試験科目

| コース | 職名 | 教員 | 主な研究課題 | 口述試験科目 |
|-------------|-------|--------------------------------|-------------------------------------|----------|
| 植物生産環境科学コース | 教授 | 宇田津 徹朗 | 東アジアにおける環境と共生した水田稲作技術の変遷に関する研究 | 地域農学 |
| | 教授 | 竹下 稔 | 植物-ウイルス間相互作用と媒介昆虫による植物ウイルスの伝搬に関する研究 | 植物病理学 |
| | 教授 | 鉄村 琢哉 | 環境低負荷型果樹栽培システムの開発に関する研究 | 果樹園芸学 |
| | 教授 | 山本 直之 | 環境共生型物質循環システムの経営経済的評価に関する研究 | 農業経営経済学 |
| | 教授 | 湯浅 高志 | 作物の収量・環境ストレス耐性の向上に関する研究 | 作物学 |
| | 教授 | 園師 一文 | 園芸生産物の機能性・食味成分向上に関する研究 | 園芸利用学 |
| | 准教授 | 狩野 秀之 | 農産物の産地間競争に関する計量経済学的研究 | 農業経営経済学 |
| | 准教授 | 木下 統 | 農作業の安全性・快適性に関する研究 | 労働環境工学 |
| | 准教授 | 梶島 芳徳 | 高品質農業生産のための機械化・情報化に関する研究 | 生産システム工学 |
| | 准教授 | 稲葉 丈人 | 植物細胞におけるオルガネラ形成と環境適応におけるその役割に関する研究 | 植物生理学 |
| | 准教授 | 本勝 千歳 | 常緑性果樹の開花から結実にかけての生殖生理・生態に関する研究 | 果樹園芸学 |
| | 准教授 | 増田 順一郎 | 野菜・花きにおける育種と栽培技術の開発に関する研究 | 野菜・花き園芸学 |
| | 准教授 | 稲葉 靖子 | 植物の生殖器官における熱産生機構とその利用に関する研究 | 花き生理学 |
| | 准教授 | 安達 鉄矢 | 生物的防除を基幹とした総合的害虫管理に関する研究 | 応用昆虫学 |
| | 講師 | 松尾 光弘 | 環境低負荷型作物栽培技術の開発と持続的雑草管理に関する研究 | 作物学 |
| | 助教 | 霧村 雅昭 | 環境と調和した資源循環型農業システムに関する研究 | 施設園芸学 |
| 助教 | 日吉 健二 | 未利用エネルギー回収装置及び農業用ロボットの開発に関する研究 | 生産システム工学 | |
| 森林緑地環境科学コース | 教授 | 伊藤 哲 | 森林景観における生物多様性保全と生態系サービスに関する研究 | 造林学 |
| | 教授 | 清水 収 | 流域スケールの土砂動態と土砂災害軽減に関する研究 | 砂防学 |
| | 教授 | 多炭 雅博 | 衛星リモートセンシングを利用した環境計画および管理に関する研究 | 生物環境物理学 |
| | 教授 | 藤掛 一郎 | 木材生産と森林環境保全を両立させる人工林経営と地域林業に関する研究 | 森林経営経済学 |
| | 教授 | 雉子谷 佳男 | 木本植物の木部形成と木材材質の変動に関する研究 | 木本植物科学 |
| | 教授 | 光田 靖 | 森林の多面的機能に配慮した森林計画に関する研究 | 森林計画学 |
| | 教授 | 高木 正博 | 森林生態系における物質循環に関する研究 | 森林立地学 |
| | 准教授 | 竹下 伸一 | 流域における水・気候資源の評価に関する研究 | 地域水文気象学 |
| | 准教授 | 中園 健文 | 自然環境に配慮した構造物ならびに農業生産環境に関する研究 | 地域環境施設学 |
| | 准教授 | 櫻井 倫 | 木材生産のための林内道路網と収穫作業システムに関する研究 | 森林利用学 |
| | 准教授 | 篠原 慶規 | 水・土砂移動に関連した自然環境問題・自然災害に関する研究 | 国土管理保全学 |
| | 准教授 | 平田 令子 | 野生動物の保護・管理と森林生態系の保全に関する研究 | 森林保護学 |
| | 准教授 | 徳本 雄史 | 樹木と周辺の生物や環境との相互作用系に関する研究 | 森林機能生態学 |
| 助教 | 津山 濯 | 森林植物の細胞活動の解明と森林資源の活用に関する研究 | 森林植物細胞学 | |

| コース | 職名 | 教員 | 主な研究課題 | 口述試験科目 |
|-------------|-----|----------------|------------------------------|---------------------|
| 応用生物学コース | 教授 | 河原 聡 | 畜産食品の品質向上に関する研究 | 動物資源科学 |
| | 教授 | 國武 久登 | 果樹の品種開発に関する遺伝育種学的研究 | 植物機能科学 |
| | 教授 | 佐伯 雄一 | 根粒菌のゲノム生態学的研究 | 植物機能科学 |
| | 教授 | 榊原 陽一 | プロテオミクスによるタンパク質の機能に関する研究 | 応用生物化学 |
| | 教授 | 吉田 ナオト | 環境と微生物の相互作用解明およびその利用に関する研究 | 微生物機能開発学 |
| | 教授 | 山崎 正夫 | 共役脂肪酸の生理機能に関する研究 | 食品科学 |
| | 教授 | 引間 順一 | 水圏生物における自然免疫システムに関する研究 | 動物資源科学 |
| | 教授 | 服部 秀美 | 肥満に起因する疾患の発症機序についての研究 | 応用生物化学 |
| | 准教授 | 井上 謙吾 | 微生物機能を利用したエネルギー生産と環境浄化に関する研究 | 微生物機能開発学 |
| | 准教授 | 江藤 望 | 細胞老化と炎症に関する研究 | 応用生物化学 |
| | 准教授 | 河野 智哉 | 魚類の生理活性物質による免疫制御機構に関する研究 | 動物資源科学 |
| | 准教授 | 仲西 友紀 | 畜産食品の機能性成分に関する研究 | 動物資源科学 |
| | 准教授 | 平野 智也 | 花卉園芸植物の品種改良に関する研究 | 植物機能科学 |
| | 准教授 | 山本 昭洋 | 植物の環境ストレス耐性と生産性向上に関する研究 | 植物機能科学 |
| | 准教授 | 黒木 勝久 | 生理活性物質の代謝に関する研究 | 応用生物化学 |
| | 准教授 | 小川 健二郎 | 眼疾患の原因と目の健康に有用な素材に関する研究 | 食品科学 |
| | 助教 | 横山 大悟 | 腸内細菌叢を介した食品の機能性に関する研究 | 食品科学 |
| 海洋生物環境科学コース | 教授 | 吉田 照豊 | 海洋生物における病原微生物による感染症に関する研究 | 海洋生物生理病理学 |
| | 教授 | 林 雅弘 | 海洋生物が生産する機能性成分の利用に関する研究 | 海洋生物化学 |
| | 教授 | 内田 勝久 | 海洋生物における成長と繁殖生理機構に関する研究 | 海洋生物生理病理学 |
| | 教授 | 田中 竜介 | 海洋生物における機能性成分の分析に関する研究 | 海洋生物化学 |
| | 教授 | 深見 裕伸 | 海洋無脊椎動物（特にサンゴ）の進化、生態に関する研究 | 海洋生物環境学 |
| | 教授 | 長野 直樹 | 海洋生物資源の有効利用と水産業の高度化に関する研究 | 海洋生物化学 |
| | 教授 | 田岡 洋介 | 海洋微生物の生理生態と有用物質生産に関する研究 | 海洋生物化学 |
| | 准教授 | ウルバンチク ヘンリク | 海洋性細菌の多様性と進化に関する研究 | 海洋生物環境学 |
| | 准教授 | 村瀬 敦宣 | 沿岸環境と生物多様性に関する研究 | 海洋生物環境学 |
| | 准教授 | 林 康広 | 海洋資源を用いた抗ウイルス剤の開発 | 海洋生物化学 |
| | 准教授 | 宮西 弘 | 魚類の環境適応を中心とする生理機構に関する研究 | 海洋生物生理病理学 |
| | | 助教 | 西木 一生 | 水産養殖における疾病の対策に関する研究 |

| コース | 職名 | 教員 | 主な研究課題 | 口述試験科目 |
|-------------------|-----|--------|---|------------|
| 畜産 草地科学 コース | 教授 | 續木 靖浩 | 動物生産における生殖制御に関する研究 | 動物生殖制御学 |
| | 教授 | 飛佐 学 | 草地における牧草生産と管理に関する研究 | 草地管理学 |
| | 教授 | 井戸田 幸子 | 草地における粗飼料の生産と土壌環境に関する研究 | 草地管理学 |
| | 教授 | 田中 秀典 | 多様な遺伝資源を活用した草類育種に関する研究 | 草類遺伝資源・育種学 |
| | 教授 | 井上 慶一 | 家畜の育種改良と遺伝的多様性の保全に関する研究 | 動物遺伝育種学 |
| | 教授 | 坂本 信介 | 家畜・動物園動物・野生動物の行動と生態およびこれらの動物の環境管理に関する研究 | 動物環境管理学 |
| | 准教授 | 井口 純 | ヒトや家畜に病気を引き起こす細菌の遺伝学的研究 | 動物衛生微生物学 |
| | 准教授 | 石田 孝史 | 家畜の育種改良における統計遺伝学および分子遺伝学的研究 | 動物遺伝育種学 |
| | 准教授 | 小林 郁雄 | 動物生産における適正な飼養管理に関する研究 | 草地畜産学 |
| | 准教授 | 高橋 俊浩 | 動物生産における栄養機能の解析と利用に関する研究 | 動物生理栄養学 |
| | 准教授 | 石垣 元気 | 温帯地域におけるイネ科およびマメ科植物の生産 | 草地畜産学 |
| | 准教授 | 徳永 忠昭 | 効率的な優良家畜集団造成に関する研究 | 動物環境管理学 |
| | 准教授 | 安在 弘樹 | 放牧草地と家畜の生態系と生産システムに関する研究 | 草地生態システム学 |
| | 助教 | 権藤 崇裕 | 草類の分子育種とその安全性評価に関する研究 | 草類遺伝資源・育種学 |
| | 助教 | 新美 光弘 | 暖地における草類利用と温暖化抑制に関する研究 | 飼料作物・利用学 |